

はじめに

大阪市は、これまで学校園の現場を支えてきたベテラン教員が大量に退職することに伴い、新規採用者数が大幅に増え、ベテラン教員の豊富な経験と優れたスキル等をいかに継承するかという大きな課題を抱えています。

教育センターではこれらの課題を解決するに当たって、この転換期をチャンスととらえ、中堅やベテラン教員を核として、学校全体で授業力の向上や元気で熱意をもった若手教員の育成に取り組む仕組みづくりを進めています。新規採用から年次毎に実施するキャリアステージに応じた基本研修、土曜自主研修会・夜間セミナーに加え、昨年度から小学校の2年目教員を対象としたOJT事業、今年度からは新たに「授業力アップサポート事業」を実施してきました。

教員がセンターに来て受講するスタイルでなく、教育指導員（経験豊富なOB校長）が年4回学校に出向き、それぞれの課題を踏まえつつ、研究授業を伴う校内研修の開催を支援しています。その結果、平成21年12月の時点で「授業研究を伴う校内研修」は、平均で小学校7回、中学校4回実施しています。校内研修会での討議をきっかけとして、経験の差や担当教科の壁を越えた校内研修体制が確立し、授業づくりについて「これまで以上に話し合いができるようになった」という声を多くいただきました。

2年目を迎えた教師力向上支援室は、大型プリンタや資料検索用のパソコンを設置するなど使いやすさを考慮するとともに、新たに月替わりで児童生徒の作品や手作り教材を展示したり、「幼児教育ルーム（旧幼児教育センター所蔵図書の移管）」や「授業デザインルーム」等を設置したりするなど、更に充実を図っています。1月末現在の利用者数は1万人を超えました。さらに、特別支援教育に関する研修・調査・研究の拠点として「特別支援教育推進ルーム」を開設し、各校園の特別支援教育コーディネーターの活動を支援する窓口としてその機能を発揮しております。また、12月25日（金）には「学力向上シンポジウム」を開催し、600名を超える参加者の中、教育センターが提案している授業改善に向けたアクションプランの推進について、「取り組みを深める工夫やアイデア」「教職員の協働性の構築」「若手教員のマイプラン」の3つのテーマに沿って活発な話し合いが行われました。3月20日（土）には「教育センターフォーラム」を開催し、授業力の向上や学習集団づくりについて教育センターの研究成果や研究協力校の実践を発信していきます。

『『来る』研修から『打って出る』研修へ』をキーワードにした教育センターの新しい取り組みを、学校園が自校の課題に応じて受けとめ、成果を上げつつあることを実感しています。今後は、一人一人の教職員のニーズに応じた学びの場を提供できるよう研修・研究・相談のあり方について、さらに改善充実に努めていく必要があると認識しています。

それぞれの学校園が活力に満ち、子どもも教職員もその瞳が輝くような学校園づくりを進めることができるよう、教育センターが支援できることをこれからも追求していく所存です。

教育センター改革3年目を迎え、手ごたえを感じつつも、さらなる飛躍を決意しております。ぜひ、この所報「クリエイト59号」をご一読いただき、様々なご意見をお寄せいただければ幸いです。

平成22（2010）年3月
大阪市教育センター
所長 後藤幸雄